

流行ニュース：

< 髄膜炎菌感染症 >

メッカ巡礼関係者の髄膜炎菌感染症が各国で報告されており、状況は以下の通りである。

フランス（最新情報）¹：メッカ巡礼から帰国した感染者が増加しており、これまで4例の死亡を含め14例が報告されている。確定診断例中11例が髄膜炎菌血清型 W135 であった。

オランダ：巡礼者の親近者に確定診断2例（髄膜炎菌血清型 W135、発症日4月5日・6日）と可能性例1例が報告されている。

オマーン²：現在まで12例（年齢6ヶ月～80歳、発症日は3月20日～4月6日、確定診断例中7例は血清型 W135、2例は血清型 A）の報告があり、すべて回復した。うち3例は巡礼者であり、9例はその親近者である。

サウジアラビア：先月以来55例の死亡を含む合計199例（55例は髄膜炎菌血清型 A、30例は血清型 W135、1例は血清型 B）が報告された。今年になって東南アジアからの巡礼者が増加しており、当局は監視を強めている。

イギリス（最新情報）¹：メッカ巡礼に関連した感染者が増えており、現在死亡4例を含めて22症例（20例は髄膜炎菌血清型 W135、1例は髄膜炎菌血清型 A）。最後の症例の発症日は4月11日であった。

参照：¹No.15、2000、p.118 ²編集メモ、No.15、2000、p.118.

< 旅行者への注意：ドミニカ共和国への旅行者に対するマラリア予防内服の勧告（最新情報） >

熱帯熱マラリアが Castanuelas、Hondo valle と Pepillo Salcedo などの西部地方に、わずかながら年間を通して存在する。危険地域での予防内服薬はクロロキンである。すでに1月14日付け WER No.2 で報じた東部地方のマラリア流行は沈静化しており、目下のところこの地域に滞在する旅行者は予防内服を用いる必要はない。旅行者向けのより総合的なマラリア情報は <http://www.who.int/ith/english/index.htm> を参照されたい。

今週の話題：< 伝染病における予測：WHO 東地中海地区¹、パート² >

予測を効果的に行うためのステップ：

予測は、一連の段階から成る再現性を有する過程である。数学的な詳細は別にすれば、これらの段階は概ね以下のように要約できる：

1. 予測範囲を定義する（予測対象となる伝染病、その期間、目的、予測の精度など）。
2. 予測対象の重要変数を確定する。（データの収集、過去のパターンから疫学上内在性、外在性の要因を割り出す、等）
3. データの信頼性・全体性・均質性等を確認し、そのデータを分析する準備を行う。
4. データを分析する。
5. 一つ、あるいは一つ以上の適切な予測方法を選択する。（質的又は量的方法）
6. 選択した予測方法を適用し、数種の仮予測を確定する。
7. 予測方法の結果を比較する。
8. 最終予測を決定する。
9. 予測を監視し更新する。

伝染病に対処しうる包括的方法を策定するためには、重要疾患発症の今後の見通しに関する情報が必要となるであろう。必要な条件と策定されたステップが合致した場合には、予測のプロセスを通じてこうした情報が入手できる。伝染病の予測には一方で優れた疫学的知識と実践が必要であるが、また他方では機能的監視システムも必要となる。さらに統計学的数学的専門知識もモデルの構築に必要なではあるが、しっかりした疫学的思考法がなければ誤りに陥りやすい。この点について WHO は加盟国に対し、1. 伝染病監視システムのさらなる改善、2. 重要伝染病の「予測」概念の認識強化、を推奨している。

参照：¹1999年、WHO 東地中海地区委員会文書「伝染病における予測」からの抜粋（文書 EM/RC/46/8）。

²パート は No.10、2000、pp.80-83.

< 食用動物に対する抗菌剤の使用 >

食用動物に対する抗菌剤の慎重使用に関する WHO 勧告案

電子討論グループ、2000 年 4 月 15 日-5 月 15 日

動物と食物関連の公衆衛生上の危険性を扱う WHO のチームは、国連食糧農業機関 (FAO) と国際動物伝染病事務所 (OIE) と共同して、食用動物における抗菌剤の慎重使用についての勧告案をまとめ、電子討論を目的として web 上で公開している。電子討論グループでは、この勧告に対する関連各方面からの意見や提案を歓迎している。2000 年 6 月 5 日-9 日には、ジュネーブの WHO 本部にて協議会が開催される。先進国、発展途上国を問わずすべての関連分野の代表者が招かれ、FAO と OIE の参加も得る。会議の最終的な目的は勧告案の採択である。

電子討論グループへの参加方法：下記の WHO のホームページからアクセス。

<http://www.who.int/emc/diseases/zoo/edg/home.html>

なお、投稿先は draftgp@who.int である。

< 食物微生物学 >

WHO-認定コース

イギリス、サリー大学生物科学科において 2001 年 6 月 24 日から 7 月 14 日まで、第 15 回微生物学上級コース (食物分析経験をもつ微生物学者のための集中コース) が開かれる。このコースは専門的講義やデモンストレーション、実習、施設訪問などで構成され、対象は相応の知識と経験を有する大学院生レベルに限定される。週 5-6 日約 50 講では次の 5 つのトピックを扱う。1. 食物によって運ばれる病気において重要な微生物 (例えば、サルモネラなど) の特性と生態学、2. 食物を腐敗させる微生物 (バクテリア、イースト、カビ) の特性、3. 食物関連微生物の成長、生命維持、死に影響を与える要因への基本的考察、4. 特定の食物と加工が生体に与える影響との微生物学的関連、5. 標本抽出と食物分析との統計学的実践的關係。

照会先：Dr. M.R.Adams

School of Biological Sciences, University of Surrey

Guildford, Surrey GU2 5XH United Kingdom

Fax:+44(0)1483 300374 E-mail:m.adams@surrey.ac.uk

<http://www.surrey.ac.uk/SBS/>

(吉田文、山本文香、関啓子、宇賀昭二)